

## 平成29年度 明石市地域自立支援協議会

## くらし部会 レポート Vol.28 平成30年3月15日

発行元：明石市地域自立支援協議会 くらし部会事務局（明石市基幹相談支援センター）

住所：明石市貴崎 1 丁目 5 番 13 号（明石市立総合福祉センター 1 階）

電話番号 078-924-9155 ファクシミリ 078-924-9134

【意見投稿用アドレス】 [akashi\\_jiritsushien@yahoo.co.jp](mailto:akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp)

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。

今年度のすまいの会では、「居住系サービスにおける災害対策」をテーマに、各事業所間で情報交換や課題の共有をしています。昨年12月のワーキンググループの中で、11月に大蔵市場で火災が発生した時に、近くの高齢者向けグループホームの管理者が迅速な対応で利用者を無事に避難させた、という新聞記事が話題に上りました。このワーキングの中でも、火災の避難訓練については度々話していますが、実際に火災が起こった時に訓練どおりに避難できるのか不安があるという意見もあり、火災発生時の避難の状況や避難所での過ごし方など、実際のお話を聴かせてもらいたいということで、グループホーム 大蔵の里 管理者の飯嶋武史さんに依頼したところ、快く引き受けて下さいました。

今回のレポートは2月9日（金）博由園にて開催した「災害発生時の避難誘導に関する勉強会」について報告いたします。勉強会では、①初期始動について、②避難について、③事前準備、④今回の経験を踏まえて、の4点についてお話頂きました。

## ①初期始動について

大蔵の里は認知症の方を対象にしたグループホームで、当日の利用者数は15名。火災の一報はベランダに出た職員が火災に気づき、施設外にいた飯嶋氏へ連絡。飯嶋氏はすぐ避難準備をする様に指示し、ホームに急行したが、すでに周辺道路が混雑していたとのこと。到着後119番に指示を仰いだところ、避難先の選定のため5分後の折り返しを待つ様にとの返答。5分後中崎小学校への避難指示が出されたとのこと。飯嶋氏は、避難所でトイレに困ると判断し、利用者にはオムツを着用してもらい、ホーム内の車椅子を集めたそうです。

## ②避難について

勤務中の職員以外に休みの職員やその子供（高校生）が駆けつけてくれたものの、社用車、職員自家用車だけでは移動の車が足りず、消防に応援を依頼。パトカー1台が応援のため派遣され、順に小学校へ避難。避難する際、ホーム駐車場にもやじ馬が集まっていたため、車の出入りがしづらい状況であったそうです。避難所である小学校に到着すると、到着順に



部屋に通され、利用者がばらばらになってしまったため、同一の部屋に集まれるように依頼。その後、暖房設備や障害者用トイレが併設された部屋が用意され、全員移動できたとのこと。この間、飯嶋さんは家族連絡と、出来れば家族宅へ外泊させてほしいと依頼し、7名の利用者が家族宅に外泊することになったそうです。一方、比較的介護度の重い利用者が避難所で過ごすことになり、災害時の課題の一つではないかとのことでした。

また、普段オムツを使用しない人や慣れない環境による頻尿など、排泄の問題があったことや、食事はおにぎりや非常用のパンが届けられたが、利用者が口にすることは出来ず、飯嶋氏が友人や家族の協力を得て、近くのコンビニに買出しへ行き、離乳食対応が必要な利用者には、ドラッグストアで調達したこと、エアベッドが届いたが、慣れない利用者はほとんど眠れなかったことなど、避難後の課題がいくつもあったということです。

結局、翌朝3時にホームに戻って良いとの指示があったので、まず飯嶋氏がホームに戻り、前日に準備していた夕食の処分と片付け、その日の朝食を準備し、朝6時頃に利用者がホームに戻れたそうです。

### ③事前準備

大蔵の里さんでは、日ごろより避難訓練はしており、非常用の持ち出し袋も用意していたが、実際には持ち出せなかったとのこと。また、利用者の特性は把握していたが、当日興奮した人もいたそうです。

### ④今回の経験を踏まえて

飯嶋さんは、「指示を待つのではなく、施設側・現場の判断が大事」、「とにかく避難優先。必要物品の持ち出しは実際には難しい」、「社用車のガソリンは常に半分以上入れておくこと」の3点と、「改めて食事、排泄、睡眠を確保することの大切さを実感している」と話しておられました。

飯嶋さんのお話はとても臨場感があり、当日の現場の様子がとてもよく伝わりました。参加者からは、「いざ自分の施設で火災が発生した時に、飯嶋さんのように的確な判断、迅速な対応ができるだろうか」と言った声や、「避難訓練というと、避難方法のことばかり考えてしまうが、避難した後の対応についても、事前に準備やシミュレーションをしておくことが必要だと思った」と言った感想がありました。貴重な体験談をお話ししてくださった飯嶋さんに、この場を借りて改めて御礼を申し上げます。

また、「すまいの会」では、来年度も引き続き「居住系サービスにおける災害対策」をテーマにワーキング活動を行う予定です。具体的な活動内容として、市内の事業所向けに、災害対策に関するアンケート調査を実施したいと考えていますので、関係各所の皆様、ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

